

きこえの教室における語彙指導の試み

足利市立第三中学校 きこえの教室
高橋良男・川島清

Ⅰ はじめに

教科の指導や対話の上で困ることは、ことばの意味を知らない上に、そのことばに出会ったことのない生徒がいるということである。ことばの意味を辞書でひかせたりそのことばを使っただけの短文作りをしたり、文のなかでの意味を文の流れにそって考えさせることをいままでやってきたが、なかなか難しいことが多い。

難しい点は、次のようなことである。

- ① そのつどことばの意味などを指導するのは、生徒の要求に即してよいと思うが、そのことばだけに時間がかかりすぎる場合が多い。
- ② ことばの指導に時間をかけることは、必要だということを考えながらも、中学校では教科指導の時間数が相当量必要だという現実がある。
- ③ 主観的に選んだことばを、とりたてて指導しても、生活に密着しているとはいえないので、定着がわずかである。
- ④ 獲得量の増加と使用量の増加とのギャップが大きくなってくる。

などである。

もちろん言語指導そのものは、とりたての場だけでなくあらゆる場で取り組むことが大切である。しかしながら、語彙量やその意味の獲得量が少ないと、指導の面での障害が多くなっていくことに間違いはない。その点で私は、ことばの指導がより整理された方法で効果をあげられればよいのだがという欲求を常々もっていたのである。

私は、言語指導をことばを主とした抽象能力育成と考えてきた。そして、このことを次のように考えた。ことばは、その意味をわからずに覚えたとしても、ある場面にあることばが使われるという記憶や経験を通して一次的な獲得がされるだろう。その基盤をもとにして使用し、あるいは使用するときに確かめながら（二次的）ことばそのものの意味内容を獲得するのではないか（三次的）と思っている。

このように考えるとき、教育の立場で、学習というカテゴリーで選択された『語彙』を求めている。この語彙を獲得することで、いままでの問題を解消する第一歩になるのではないかとかがえたわけである。この語彙指導の試みは、語彙がどのように使われており、どのような意味内容をもつのかを理解させるための、ごく一次的な試みである。

Ⅱ 語彙の範囲

語彙の選択をする上では、多くの裏づけがなされなければならないので、この手続きは省略し、福沢、岡本の『小学校における効果的な語彙指導』（教育出版、1981）に収録された『学習基本語彙表』をもとにして考えることにした。この語彙表は、「原則として、児童が学習する語

彙のうち、とくに、使用語彙として、その意味用法を習熟させる必要があると認められた語の集まり」と、考えている。

私は、難聴の生徒に少なくとも小学校段階で習熟させる必要のある語彙（参考文献の語彙表は小学校における表）については扱う必要があると考えた。そこで、本教室の在籍生徒4名に対して「知っているか」「知らないか」という福沢等の方法と同じ方法で3790語を調査し、本教室用の語彙表を作成した。（表1）

私は、この表をもとにして4名がそろって知らないと答えた語彙301語について、いくつかの試みをしようと考えたわけである。

Ⅲ 語彙指導の試み その1（省略）

Ⅳ 語彙指導の試み その2

その1の失敗を考えたらうで、次に考えたことはこうであった。

表現をてがかりとせず、あるものを理解し、その上でそれを説明させることはどうだろうかと考えた。そして、その説明をもっと詳しくすることの作業の中で新しい語彙を使用させることの試みをしてみた。あるものを理解するというが、それがことばであると理解しにくいので、マンガを簡単なストーリーに組み変えて考えさせることにした。そのマンガのストーリーを説明させることからスタートした。

1. 例1 中1年男（聴力レベル 右74, 左81 dB）

(1) マンガをみて、ストーリーを考える。（表4）

(2) 第一次ストーリーをもとに話しあう。「想像してセリフをもっと入れてみよう。」

（生徒の補足）

②の場面 「ソノ」

④の場面 「うんせ、うんせ」

⑦の場面 「味はどうかなあ」

⑧の場面 「ベッ、ベッ」

(3) 新語彙を知らせ、調べさせる。「このことばを使いながら、もっとくわしい物語を作ってみよう。」

あいにく、行儀、しゃく、熟す、新鮮、つるす、てごろ、ひっそり、ひとりでに、ふと、豊富、余裕

※ 事前学習カード 上段は辞書から、下段は連想語

語彙	内容（辞書の意味は省略）	語彙	内容（辞書の意味は省略）
あいにく	食べ物、本	てごろ	球、石、値段
行儀	勉強	ひっそり	村、山、海
しゃく	いじめ	ひとりでに	野生動物
熟す	リンゴ、ミカン、柿	ふと	狩り
新鮮	魚肉、野菜	豊富	商品、食べ物
つるす	ほし柿、電灯	余裕	試合、時間

(連想語と生徒の説明)

あいにく……………食べもの、本

○食べようと思ったら食べられなかった。

○本を読もうとしたら読めなかった。

しゃく……………いじめ

○いじめられたら怒る、腹がたつ

ふと……………狩り

○鉄砲を手入れして、たまを入れようとしたら、ふとうってしまった。

(4) 連想語とその意味について話し合い、確認と補充をする。

○生徒の説明を聞き、教師が補充したり、もう一度辞書を引かせるなどして意味をとらえさせる。

○完成法を使用し、短文のなかに語彙をいれることで、意味の確認と使用の仕方について考えさせる。

ア 「ひとりでに」「ふと」を、短文の中に入れさせようとしたが、回答できない。12語を全部入れることで、どの短文にふさわしいかを考えさせる。

(完成法で使用した短文と、反応)

①(ふと)気がつくと、外は暗くなっていた。

②校庭を6周もしたが、ぼくの体力にはまだまだ(余裕がある)

③まんじゅうが大好きなので、目の前にあると、(ひとりでに)よだれがでてくる。

④肉屋さんに行ったが、コロッケは(あいにく)売り切れていた。

⑤(新鮮な)魚の目は、まだ生き生きしている。

⑥もの干しざおに(つるした)洗たく物が風にゆれている。

⑦これが千円なら(てごろの)値段だ。

⑧もう一歩で1位だったのにとすると(しゃくで)さわってしかたない。

⑨(熟した)ぶどうは、とてもよい香りがする。

⑩夜の町は、本当に(ひっそり)している。

⑪日本は、水産資源が(豊富)です。

⑫足でドアをしめるなんて(行儀が)悪い。

イ 語彙を適切に挿入することができた。しかし、⑦、⑧、の2語についてつまずいたので、正しい形を教えた。

(5) 語彙の意味の確認をもとに、第1次ストーリーの中に、新しい語彙を組み込ませる。

(第2次ストーリー) (表5)

※ 語彙を文章の中に組み込もうとする意欲が高い。

「どれがいいかな」と考えながら作文している。誤って使っている場合もあるが、語彙がどのように使われるかを考えさせるには、よい方法のようだ。

(表1) 4名とも知らないと反応した語彙

品名	品名	品名	品名
111 あいにく	1.804	B	
112 あいまい(曖昧)	1.311	C	
113 あつかう(暑う)	1.704	C	
114 あてた(宛手)	1.570	B	
115 あらい(洗い)	1.818	B	
116 あらい(洗い)	1.776	C	
117 あらためる(定める)	1.756	B	
118 あらゆる	1.572	C	
119 いら(い)	1.536	C	
120 いら(いる)	1.880	B	
121 うつうしい	1.308	C	
122 うつろ	1.564	B	
123 うつろ(うつ)	1.884	C	
124 うつろ(うつ)	1.592	C	
125 うつろ(うつ)	1.804	B	
126 うま(う)	1.458	B	
127 うま(う)	1.804	B	
128 うま(う)	1.320	C	
129 うま(う)	1.316	C	
130 うま(う)	1.874	B	
131 うま(う)	1.292	C	
132 うま(う)	1.748	B	
133 うま(う)	1.300	C	
134 うま(う)	1.716	C	
135 うま(う)	1.764	B	
136 うま(う)	1.576	B	
137 うま(う)	1.520	C	
138 うま(う)	1.512	C	
139 うま(う)	1.868	B	
140 うま(う)	1.812	C	
141 うま(う)	1.320	C	
142 うま(う)	1.740	C	
143 うま(う)	1.978	A	
144 うま(う)	1.428	B	
145 うま(う)	1.774	C	
146 うま(う)	1.404	B	
147 うま(う)	1.784	B	
148 うま(う)	1.376	C	

品名	品名	品名	品名
149 あつこ(固く)	1.924	B	
150 あつこ(固く)	1.822	B	
151 あつこ(固く)	1.708	C	
152 あつこ(固く)	1.960	B	
153 あつこ(固く)	1.878	B	
154 あつこ(固く)	1.928	C	
155 あつこ(固く)	1.620	C	
156 あつこ(固く)	1.516	C	
157 あつこ(固く)	1.624	A	
158 あつこ(固く)	1.908	C	
159 あつこ(固く)	1.756	C	
160 あつこ(固く)	1.816	B	
161 あつこ(固く)	1.832	C	
162 あつこ(固く)	1.172	C	
163 あつこ(固く)	1.503	C	
164 あつこ(固く)	1.596	C	
165 あつこ(固く)	1.436	C	
166 あつこ(固く)	1.916	A	
167 あつこ(固く)	1.796	B	
168 あつこ(固く)	1.176	C	
169 あつこ(固く)	1.624	C	
170 あつこ(固く)	1.680	A	
171 あつこ(固く)	1.510	C	
172 あつこ(固く)	1.452	U	
173 あつこ(固く)	1.340	C	
174 あつこ(固く)	1.844	U	
175 あつこ(固く)	1.500	C	
176 あつこ(固く)	1.532	C	
177 あつこ(固く)	1.936	A	
178 あつこ(固く)	1.652	C	
179 あつこ(固く)	1.680	B	
180 あつこ(固く)	1.510	C	
181 あつこ(固く)	1.616	B	
182 あつこ(固く)	1.260	C	
183 あつこ(固く)	1.436	C	
184 あつこ(固く)	1.673	C	
185 あつこ(固く)	1.320	C	
186 あつこ(固く)	1.344	C	

品名	品名	品名	品名
187 あつこ(固く)	1.712	C	
188 あつこ(固く)	1.504	C	
189 あつこ(固く)	1.492	C	
190 あつこ(固く)	1.880	A	
191 あつこ(固く)	1.580	B	
192 あつこ(固く)	1.488	C	
193 あつこ(固く)	1.824	B	
194 あつこ(固く)	1.500	C	
195 あつこ(固く)	1.336	C	
196 あつこ(固く)	1.870	A	
197 あつこ(固く)	1.564	C	
198 あつこ(固く)	1.628	C	
199 あつこ(固く)	1.772	B	
200 あつこ(固く)	1.776	C	
201 あつこ(固く)	1.892	B	
202 あつこ(固く)	1.516	C	
203 あつこ(固く)	1.460	C	
204 あつこ(固く)	1.832	C	
205 あつこ(固く)	1.596	B	
206 あつこ(固く)	1.728	C	
207 あつこ(固く)	1.716	U	
208 あつこ(固く)	1.656	C	
209 あつこ(固く)	1.602	C	
210 あつこ(固く)	1.360	C	
211 あつこ(固く)	1.280	C	
212 あつこ(固く)	1.496	C	
213 あつこ(固く)	1.178	C	
214 あつこ(固く)	1.470	B	
215 あつこ(固く)	1.692	B	
216 あつこ(固く)	1.308	C	
217 あつこ(固く)	1.568	C	
218 あつこ(固く)	1.824	C	
219 あつこ(固く)	1.448	C	
220 あつこ(固く)	1.828	B	
221 あつこ(固く)	1.660	B	
222 あつこ(固く)	1.588	B	
223 あつこ(固く)	1.684	A	

品名	品名	品名	品名
224 あつこ(固く)	1.808	B	
225 あつこ(固く)	1.780	C	
226 あつこ(固く)	1.486	C	
227 あつこ(固く)	1.648	C	
228 あつこ(固く)	1.672	B	
229 あつこ(固く)	1.628	A	
230 あつこ(固く)	1.802	C	
231 あつこ(固く)	1.220	C	
232 あつこ(固く)	1.832	C	
233 あつこ(固く)	1.472	B	
234 あつこ(固く)	1.792	B	
235 あつこ(固く)	1.492	C	
236 あつこ(固く)	1.784	C	
237 あつこ(固く)	1.906	C	
238 あつこ(固く)	1.832	B	
239 あつこ(固く)	1.812	C	
240 あつこ(固く)	1.336	C	
241 あつこ(固く)	1.964	C	
242 あつこ(固く)	1.416	C	
243 あつこ(固く)	1.868	C	
244 あつこ(固く)	1.852	C	
245 あつこ(固く)	1.580	C	
246 あつこ(固く)	1.552	C	
247 あつこ(固く)	1.800	C	
248 あつこ(固く)	1.428	C	
249 あつこ(固く)	1.532	C	
250 あつこ(固く)	1.444	C	
251 あつこ(固く)	1.868	A	
252 あつこ(固く)	1.932	A	
253 あつこ(固く)	1.408	C	
254 あつこ(固く)	1.512	B	
255 あつこ(固く)	1.832	A	
256 あつこ(固く)	1.764	B	
257 あつこ(固く)	1.808	B	
258 あつこ(固く)	1.828	B	

品名	品名	品名	品名
259 あつこ(固く)	1.932	B	
260 あつこ(固く)	1.604	C	
261 あつこ(固く)	1.924	B	
262 あつこ(固く)	1.756	C	
263 あつこ(固く)	1.452	C	
264 あつこ(固く)	1.456	C	
265 あつこ(固く)	1.852	B	
266 あつこ(固く)	1.914	B	
267 あつこ(固く)	1.596	C	
268 あつこ(固く)	1.472	C	
269 あつこ(固く)	1.520	C	
270 あつこ(固く)	1.764	B	
271 あつこ(固く)	1.644	C	
272 あつこ(固く)	1.678	C	
273 あつこ(固く)	1.824	U	
274 あつこ(固く)	1.808	U	
275 あつこ(固く)	1.432	C	
276 あつこ(固く)	1.788	C	
277 あつこ(固く)	1.964	A	
278 あつこ(固く)	1.856	B	
279 あつこ(固く)	1.720	C	
280 あつこ(固く)	1.460	C	
281 あつこ(固く)	1.910	A	
282 あつこ(固く)	1.424	C	
283 あつこ(固く)	1.352	C	
284 あつこ(固く)	1.916	B	
285 あつこ(固く)	1.792	B	
286 あつこ(固く)	1.532	C	
287 あつこ(固く)	1.804	A	
288 あつこ(固く)	1.460	C	
289 あつこ(固く)	1.852	C	
290 あつこ(固く)	1.756	A	
291 あつこ(固く)	1.816	C	
292 あつこ(固く)	1.948	A	
293 あつこ(固く)	1.620	C	
294 あつこ(固く)	1.780	B	

品名	品名	品名	品名
295 あつこ(固く)	1.918	A	
296 あつこ(固く)	1.900	B	
297 あつこ(固く)	1.988	A	
298 あつこ(固く)	1.976	B	
299 あつこ(固く)	1.884	A	
300 あつこ(固く)	1.928	A	
301 あつこ(固く)	1.592	C	
302 あつこ(固く)	1.632	C	
303 あつこ(固く)	1.944	B	
304 あつこ(固く)	1.848	C	
305 あつこ(固く)	1.676	B	
306 あつこ(固く)	1.768	B	
307 あつこ(固く)	1.592	C	
308 あつこ(固く)	1.828	B	
309 あつこ(固く)	1.492	C	
310 あつこ(固く)	1.444	C	
311 あつこ(固く)	1.458	C	
312 あつこ(固く)	1.448	C	
313 あつこ(固く)	1.984	A	
314 あつこ(固く)	1.804	C	
315 あつこ(固く)	1.972	A	
316 あつこ(固く)	1.576	C	
317 あつこ(固く)	1.888	B	
318 あつこ(固く)	1.636	C	
319 あつこ(固く)	1.972	A	
320 あつこ(固く)	1.620	C	
321 あつこ(固く)	1.280	C	
322 あつこ(固く)	1.352	C	
323 あつこ(固く)	1.696	C	
324 あつこ(固く)	1.732	U	
325 あつこ(固く)	1.472	C	
326 あつこ(固く)	1.570	C	
327 あつこ(固く)	1.572	C	
328 あつこ(固く)	1.616	B	
329 あつこ(固く)	1.792	C	

品名	品名	品名	品名
330 あつこ(固く)	1.524	C	
331 あつこ(固く)	1.624	B	
332 あつこ(固く)	1.508	C	
333 あつこ(固く)	1.116	C	
334 あつこ(固く)	1.964	B	
335 あつこ(固く)	1.788	C	
336 あつこ(固く)	1.516	C	
337 あつこ(固く)	1.732	C	
338 あつこ(固く)	1.588	B	
339 あつこ(固く)	1.596	C	
340 あつこ(固く)	1.772	A	
341 あつこ(固く)	1.812	B	
342 あつこ(固く)	1.664	B	
343 あつこ(固く)	1.964	A	
344 あつこ(固く)	1.964	B	
345 あつこ(固く)	1.984	A	
346 あつこ(固く)	1.903	C	
347 あつこ(固く)	1.516	C	
348 あつこ(固く)	1.936	A	
349 あつこ(固く)	1.704	C	
350 あつこ(固く)	1.584	C	
351 あつこ(固く)	1.956	A	
352 あつこ(固く)	1.860	B	
353 あつこ(固く)	1.844	B	
354 あつこ(固く)	1.720	B	
355 あつこ(固く)	1.748	C	
356 あつこ(固く)	1.952	D	
357 あつこ(固く)	1.908	A	
358 あつこ(固く)	1.968	A	
359 あつこ(固く)	1.528	U	
360 あつこ(固く)	2.000	A	
361 あつこ(固く)	1.588	B	
362 あつこ(固く)	1.756	C	
363 あつこ(固く)	1.680	B	
364 あつこ(固く)	1.888	B	
365 あつこ(固く)	1.780	C	
366 あつこ(固く)	1.492	C	

品名	品名	品名	品名
367 あつこ(固く)	1.492	C	
368 あつこ(固く)	1.868	C	
369 あつこ(固く)	1.488	C	
370 あつこ(固く)	1.700	A	
371 あつこ(固く)	1.804	C	
372 あつこ(固く)	1.516	C	
373 あつこ(固く)	1.628	C	
374 あつこ(固く)	1.736	A	
375 あつこ(固く)	1.500	B	
376 あつこ(固く)	1.703	U	
377 あつこ(固く)	1.568	C	
378 あつこ(固く)	1.532	C	
379 あつこ(固く)	1.436	C	
380 あつこ(固く)	1.924	A	
381 あつこ(固く)	1.996	A	
382 あつこ(固く)	1.964	A	
383 あつこ(固く)	1.532	C	
384 あつこ(固く)	1.684	A	
385 あつこ(固く)	1.796	C	
386 あつこ(固く)	1.412	C	
387 あつこ(固く)	1.576	C	
388 あつこ(固く)	1.544	C	
389 あつこ(固く)	1.504	C	
390 あつこ(固く)	1.792	B	
391 あつこ(固く)	1.832	C	
392 あつこ(固く)	1.572	C	
393 あつこ(固く)	1.520	C	
394 あつこ(固く)	1.476	C	
395 あつこ(固く)	1.544	C	
396 あつこ(固く)	1.884	B	
397 あつこ(固く)	1.744	B	
398 あつこ(固く)	1.752	C	
399 あつこ(固く)	1.520	C	
400 あつこ(固く)	1.720	C	

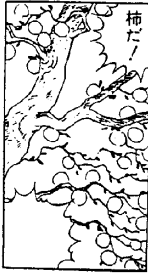
品名	品名	品名	品名
401 あつこ(固く)	1.648	C	
402 あつこ(固く)	1.492	C	
403 あつこ(固く)	1.776	C	
404 あつこ(固く)	1.600	C	
405 あつこ(固く)	1.560	C	
406 あつこ(固く)	1.968	A	
407 あつこ(固く)	1.840	C	
408 あつこ(固く)	1.900	C	
409 あつこ(固く)	1.856	B	



① (表 4)
 旅の途中歩いていると腹がこわくはた
 腹に食べ物がなくて困った。
 「腹へ、たなな」



② え、少年 が月に 711 なのは、なにが
 ん!



③ それは 柿だ、少年 は喜んで、
 あの柿を食うかと思、た。
 「よし、あの柿を取、て食べよう」

④ そして、少年は、木にのぼり、柿を取、た。
 「んせ、んせ」



⑤ や、と柿を取、り柿を見、たか
 うまそう柿だなり、
 と少年は、言、た。



⑥ 少年は、柿を食、てたが「味はど、うかなあ、」



⑦ しかし、それは、甘い柿ではなく、しぶ柿だ、
 少年は、その柿が、ど、く、なみた、か出、てしま、う、た。
 「う、ん」



⑧ 少年は、その柿を、はき、だ、して、しま、う、た。
 うまそうだ、と思、う、た、少年は、しぶ、柿、を、
 食、て、しま、う、た、の、だ、か、ど、く、し、な、た、か、ない、
 「へ、へ」

1年 5組 氏名

才1回目



(表 5)
 旅の途中歩いていると腹がへては、
 なにか食べようと思、た、が、あ、い、く、
 な、か、た、
 「腹がへ、たなな」



② う、ん、柿、だ、と、思、い、ま、す、
 の、う、ま、い、か、
 少年は、い、い、と、言、
 「ん」



③ それは 柿だ、と、い、い、た、柿、で、木、の、枝、に、
 ぶ、ら、い、た、少年は、喜、ん、だ、
 「よし、あの柿を取、て食べよう」

④ 少年は、木、に、の、ぼ、り、柿、を、取、
 っ、た、柿、を、食、
 「んせ、んせ」



⑤ や、と柿(した)を取、り、その柿を見、たか
 うまそう柿だなり、
 と少年は、言、た。



⑥ 少年は、い、い、柿、を、食、
 っ、た、が
 「味はど、うかなあ、」



⑦ しかし、それは、甘い柿ではなく、しぶ柿だ、
 少年は、その柿が、い、い、な、ま、い、な、か、
 「う、ん」



⑧ 少年は、その柿を、はき、だ、して、しま、う、た。
 うまそうだ、と思、う、た、少年は、い、い、柿、
 を、食、
 っ、た、の、だ、か、ど、く、し、な、た、か、ない、
 「へ、へ」

1年 5組 氏名

才2回目

(6) 第2次ストーリーをもとに、話し合いながら修正する。

○つるしていた……………ぶらさがっていた。

○ひっそり登った……………動くものを説明するのに「ひっそり」は使わないことを説明する。

※ 作文そのものの内容はよいが、いくつかの表現上の誤りはまだあるようだ。

(7) 更に新しい語彙を知らせ、調べさせる。

しかめる、しきりに、そびえる、とっさに、のどか、不意に、まして、幹、悠々

※ 事前学習カードより

語彙	連想語
しかめる	約束をやぶった時
しきりに	工事, 汽笛
そびえる	木, 山, ビル
とっさに	
のどか	森, オアシス
不意に	火事, 地震
まして	
幹	木
悠々	宇宙, 海

(7) 連想語をもとに話し合い、意味を確認する。

○しかめる、しきりに、とっさに、まして、悠々、の意味がよくわからないらしい。

(8) 完成法により、語彙の使われ方を考えさせる。

(完成法で使用した短文と反応)

①私の町の公園には、何本ものけやきの木が(そびえている)

②ぼくがわかったのか、ポチは(しきりに)しっぽをふっている。

③ライオンは百獣の王らしく、(悠々に)ねている。

④ぼくは、動くことがきらいだ。(まして)お手伝いなんて大きらいだ。

⑤父は、カレーライスが辛かったせいか、顔を(しかめた)

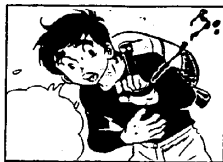
⑥(不意に)飛び出してきた車にあやうくぶつかりそうになった。

⑦寒い日が続いて、今日のように暖かい日があると、町全体が(のどかに)みえる。

⑧あまり大きくて2人でやっと手を回して抱きかかえるほどの(幹)だ。

⑨熱いのを知らずに手をふれたが、(とっさに)手をひっこめたので助かった。

※ ③で、悠々に、という反応だったので、もっとふさわしいことばはないかを考えさせたところ、悠々で、悠々な、という反応があった。ここでは、「悠々と」がふさわしいことを教える。

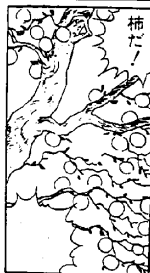


(表 6)
 ① 森の奥歩いていくと、腹がへてしまっ
 ちなにかやよと思ふが、かいにくバツの中
 は、せ入るなかつた。

「腹がへ、たぞや」



② ふと、気がついて工を見上げると、
 少年は、又、といった。



③ それは、柿だ。柿の木が何軒ぞみえ
 ている。し、くした柿の木枝には、さか、つた
 少年は、喜んだ。

「よし、柿を取って食べよう」

④ 少年は、よこ、に木に登、た、遠く、い、よ、に登、て
 柿を、い、ほ、い、取、つ、た。

「う、う、う」



第三回
 (表 7) 柿の取
 ⑤ や、い、しく、柿を取、つ、た少年は、う、ま、い、な、柿を
 柿を、取、つ、た。

「う、う、うな柿だぞや」
 と、言、つ、た



⑥ 少年は、い、じ、ん、な、柿を、食、べ、つ、た。

「柿は、ど、う、か、ぞや」



⑦ しかし、それは、甘い柿では、なく、し、く、柿だ、と
 思、つ、た。その柿が、ま、ず、く、柿を、食、べ、つ、た。
 少年は、柿が、し、く、く、ま、ず、い、い、で、は、な、ら、な、かつ、た。

「し、く、〜」



⑧ 少年は、よ、こ、に、その柿を、は、き、だ、し、て
 しま、つ、た。う、ま、い、だ、と、思、つ、た少年は、し、く、
 柿を、食、べ、つ、た、が、し、く、く、ま、ず、い、い、
 だ、な、い。

「や、あ、〜」

年 組 氏 名

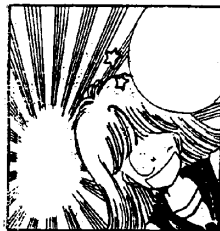
(表 7)



④ 女の人ば、ま、ず、く、父に、話、し、て、お、し、や、り、
 せ、い、し、た、ら、な、い、と、い、つ、た。



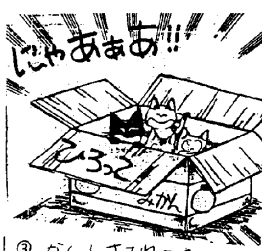
⑤ そこで、女の人ば、女に、お、酒、を、出、し、
 して、「な、つ、た、い、い、〜」と、何、回、も、言、う、の、で、
 と、う、と、う、ゆる、し、て、し、ま、し、た、ら、な、い、と、い、つ、た。



⑥ 女の人ば、「お、つ、た、あ、〜」と、
 よ、う、こ、ん、な、お、し、や、り、を、
 上、げ、ま、し、た、ら、な、い、と、い、つ、た。



⑦ その人が、何、れ、の、音、で、お、し、や、り、
 を、し、て、ま、し、た、ら、な、い、と、い、つ、た。



⑧ なんと、す、て、お、つ、た、あ、〜、と、い、つ、た。
 それに、お、し、や、り、を、い、け、な、い、と、い、つ、た。
 女の人ば、その、お、し、や、り、を、ま、ず、く、ま、ず、
 4、回、に、お、し、や、り、を、ま、ず、く、ま、ず、
 7、回、に、お、し、や、り、を、ま、ず、く、ま、ず、



⑨ 女の人ば、お、し、や、り、の、前、の、
 道、路、に、お、し、や、り、を、ま、ず、く、ま、ず、

年 組 氏 名

- (10) 第2次ストーリーの中に、新しい語彙を入れて第3次ストーリーを作る。(表6)
 (11) 第3次ストーリーを読んで、話し合いをしながらまとめる。

ア ①の場面

Q 「～が」の主語が抜けているが、何を入れたらよいか。

A あいにくバックの中(の食べ物)は) ぜんぜん～

Q 「バックの中には」としたらどうだろう

A (バックの中には食べ物が)～

イ ④の場面

Q 「とっさに」は、木に登ったということには合わないので、違うことばを入れてみよう。どんなふうにも木に登ったのだろうか。

A 速く、すぐ、荷物をおいて

Q お腹がすいて速く木に登ろうと思ったのだから、どんなことばを考えたらいいだろう。

A いそいで

Q 「速く」「いそいで」の代りに、その人の気持を表すことばはないか。

(すばやく、夢中で、必死で、を教師が教える。)

2. 例2 中1年女 (聴力レベル 右100, 左99 dB)

- (1) マンガをみて、ストーリーを考える。(表7)
 (2) 新語彙を知らせ、辞書で調べ、連想語を書く。

語彙	連想語
かがむ	体操, ふるえる
かぶさる	ぼうし
頑固(がんこ)	わがまま, らんぼう
かんしゃく	自分勝手
交渉(こうしょう)	相談
強情(ごうじょう)	つっぱり, 人殺し
心地(こち)	一人ごと
こんがらがる	ボーッとしている人
しかめる	泣く, くやしい, しょっぱい, 苦しい, いやがる時
すぎる	あまえる, すきな人

(3) 作文法による意味の確認

- 連想語の数が少ないので、意味をしっかりとらえられているかがよくわからなかった。
- そこで、本生徒については、語彙の確認とともに、語彙をどのように使うかをおさえたいために短作文作りをさせた。

(第1回目の短作文)

- ア 私は、寒くなってかがんでしまった。
イ 私は、物がかぶさる所を見た。
ウ 私が、小さかった時はがんこだったと思う。
エ 私の妹は、かんしゃくな子です。
カ 知らないおじさんたちがこうしょうしていた。
キ あの人は、ごうじょうみたいなひとだ。
ク 私は、はじめてこちをした。
ケ たこの糸がこんがらがって、青空高く上られない。
コ 小さい子が泣く前は顔をしかめてから泣く。
サ 若い女の人は若い男の人にすがっている。

(4) 短作文をもとに話し合い、語彙の意味や使われ方の確認をする。

① 対話による確かめ

「かがむ」

Q 寒くなってかがむことはないと思いますが、どんな時にかがみますか。

A 体育の時間にかがむ

(書き直した文) 私は体育の時間に先生のお話を聞く時にかがんで聞いた。

「がんこ」

Q 「わからずや」とはどんなことですか。

A わかっているのにわからないふりをする。人が何か言うとわからないこと。

Q 何回説明しても考えを変えないことだよ。

A ずっと考えたまんまのこと？

「かんしゃく」

Q 「私の妹はかんしゃくな子です。」というのを説明してください。

A かんしゃくの子、かんしゃくみたいな子

Q 辞書で、かんしゃくはどう使うか調べてください。

A かんしゃくをおこす、かんしゃくもち 私の妹はかんしゃくをおこす子です。

Q 毎日毎日おこす時はどんなことばを入れたらよいですか。

A いつも、ほとんど

Q もっとぴったりしたことばはないですか。

A 一年中

Q よく、を使うこともできるね。

(書き直した文) 私の妹は、かんしゃくを起こす子です。

「こうしょう」

Q この文にはおかしい所があってよくわかりません。どんな交渉をしていたのですか。

A 会社で作った物をいくらにするか、値段を決めるために、いろんな人と話し合っている。

Q 誰と話し合っているのですか。

A 値段を決める人とお菓子をいくらにするか相談している。

Q 辞書では、とりきめをするために相手と相談する、と書いてありますが、とりきめとはなんですか。

A どっちが取るか決めること。

Q 「とりきめ」を辞書で調べてください。

A 決定する、きめる、約束を定める

Q それは、「とりきめる」の意味ですが、やさしさ、やさしくするの意味が違うように、「とりきめる」と「とりきめ」の違いを考えてみてください。

A 約束？

Q それでは、こうしょうとはどういう意味か説明してください。

A 10時までに公園で待ち合わせる。

Q それは約束です。こうしょうとは言いません。

A 町の人が公園を作りたいといって、市役所の人達と話しあう。

Q これはこうしょうといいます。

A ビルを建てる時に、土地をもっている人とこうしょうした。

Q (交渉の意味を説明する。)

板書例

交渉(こうしょう)が成立する。

よいというまで話し合って決めること。

なっとくする。

(書き直した文) 公園を作る時、町の人と市役所の人達が交渉した。

② 完成法や短作文法による確かめ

「かぶさる」

Q かぶさるの使い方がぴったりしていませんが、かぶさるを使って短い文を作ってください。

A きれをかぶさる、水をかぶる

Q それでは、次の()の中にことばをいれて考えましょう。

○ 車にカバーを(かぶさる)

○ ぼうしを(かぶる)

()内は生徒の反応。かぶさるは訂正する。

Q もっと作ってみよう。

A 葉っぱがかぶさる。

葉っぱが人間にかぶさる。

紙がかぶさる。

紙がえんぴつにかぶさる。

(書き直した文) 林の中を歩いていたら、葉っぱが私にかぶさった。

「こんがらがる」

Q こんがらがるとのことばは「糸がこんがらがる」というふうに使いますが、短い文を他にも作ってみよう。

A 人間と動物がこんがらがる。

人間の洋服がこんがらがる。

紙がこんがらがる。

Q 使い方がぴったりしないようですが、考えがこんがらがるといふふうにも使いますよ。

A 問題を考えている時わからなくなってしまうこと？

Q わからなくなるのではなく、いろいろな考えがごちゃごちゃになってわからないことをいいます。

(書き直した文) たこの糸がこんがらがって、青空高く上がらない。

「ここち」

Q ここちということばは、次のように使いますが、短い文をもっと作ってみてください。やわらかいソファーにすわって、よいここちがした。

人に悪口をいわれたので、悪いここちがした。

A ドライブに行ったら晴れていたし、空気もおいしかったのでよいここちがした。

(書き直した文) ドライブに行ったら晴れていたし、空気もおいしかったのでよいここちがした。

③ 語彙の意味だけでなく、関連語彙もあわせた確かめ

「ごうじょう」

Q ごうじょうみたいという意味がよくわからないが、どう直したらよいでしょう。

A ごうじょうな人だ。

Q そうですね。そう使うといいですね。この「みたい」は、～ばい、～らしい、という意味に使います。「みたい」より「そうな」を使うといいと思います。

「そうな」を使って短い文を作ってみよう。

A 子どもがいないそうな人だ。

好きな人がいそうだ。

こんがらがりそうな。

かんしゃくそうな。

親切そうな人だ。

(5) 語彙の意味や使い方をもとに第2次ストーリーを作る。

(10語彙をなるべく多く使用して作るように指示) (表8)

3. 評 価

- マンガのストーリーに制約されるので，作文が作りやすく指導に利用しやすい。
- マンガのストーリーに興味をもってイメージ化でき，そのイメージにそってことばを選ぶ訓練になる。
- イメージを説明させることで，生徒が語彙をどのように使っているかを具体的に確かむことができる。
- 新しい語彙を指示することで抵抗感を与え，文章を再検討させることができる。
- 語彙を文章の中でどのように使っていくかを指導しやすい。
- 知らないと回答した語彙であるので当然なことだが，対話形式で語彙の意味内容を確認する方法では，時間のロスの多い生徒が少なくない。
- 指示語彙を辞書で調べさせる方法をとったが，その方法では必ずしも事前学習のレベルまで達することが容易ではない。
(辞書に書かれたことばの意味がわからないことが多い)
- このマンガストーリーによる指導には語彙に対して生徒がある程度のイメージを持っていないと効果が半減する。
(連想法の連想語の多少や内容によってイメージの有無を判断したい。)

(表 9)

① A-senは お父さんに「こうしょう」について話をしました。お父さんは「こうしょうはかわいい」と言いました。

② A-senは 驚いて「かわいい」と言いました。お父さんは「はい、そうです。」と返しました。

③ A-senは どうしても「かわいい」のなかに「おもしろい」という言葉が混ざっていました。お父さんは「おもしろい」という言葉は「かわいい」という言葉とは別物だと説明しました。

④ A-senの父は お酒が好きな人で、A-senも大好きです。お父さんは「おもしろい」という言葉が「かわいい」という言葉とは別物だと説明しました。A-senも大喜びしました。

⑤ お父さんが「おもしろい」という言葉が「かわいい」という言葉とは別物だと説明しました。A-senは「おもしろい」という言葉が「かわいい」という言葉とは別物だと説明しました。

⑥ A-senは 驚いて「かわいい」と言いました。お父さんは「はい、そうです。」と返しました。

No. 2 57.10.22

V 語彙指導の試み その3

知っていなければならない語彙の範囲を規定したが，知らないと回答した語彙を前述のような方法で指導することで効果はあげられるものの，時間がかかりすぎる。

そこで，語彙指導の第1ステップとして考えたことが，難聴児のための辞書である。この辞書によって事前の確かめがおこなわれ，それを利用して文章を作る。文章のなかでその語彙がどの

ように使われるかを確かめられるような指導を考えられたらと意図しているのである。

この辞書を作るために、次のことを考えた。

- ① 語彙の数は、とりあえず本教室の生徒が知らないと回答した、301語とする。
- ② ことばでの説明でなく、マンガで状況を作ること。
- ③ マンガ中のセリフは、よく知っている語彙を使用すること。
- ④ ある語彙の説明がマンガの状況だけで無理な場合は、辞書的な説明や例文を使用すること。
- ⑤ 語彙は意味を多く持つが、1つの意味だけをとりあげることをおそれない。
- ⑥ 作られた辞書は、小学校中学年以上中学生までを対象に考えたい。

マンガ辞書の例を下にあげる。



VI おわりに

私の語彙指導は、断片的であり、思いつきが多い。この試みそのものが、どのように体系づけられるかは私自身の課題ではあるが、その実践は遅々として進まない。しかし、最終的に言語をもって思考し、理解し、創造していくことが難聴児の将来にとって大きな意味があるならば、更に新しい試みを続けていこうと考えている昨今である。

教育は元来、自分の目の前にいる一人ひとりの子どもを見つめたものから出発したものである。

親や教師が一人の子どもの姿を目の前にしたとき、その子の将来の生活を予想し、この子は今、「何ができるのか」「何ができないのか」また、将来は「何をしてほしいのか」さらに親として「何をしてやれるのか」「何をしてやらなければならないのか」という視点から出発したものであろう。つまり、教育の原点は、ひとりの子に視点をあてるということである。しかし、最近はその大切さが叫ばれながらも、一方ではそれが忘れ去られていることも多い。そんな中で、心身に障害をもつ子の教育現場では、この視点が忘れられることなく力強く生きていることに教育の原点を見ることができる。

この研究は、目の前の一人ひとりの子をしっかりと見つめ、「教師のものさし」を捨て、子どものレベルに視点を置いた所から出発していることに大きな意義がある。しかも、子どもの生活に密着した教材を選択した取り組みがなされており、生きた教育であるといえる。今後さらに大きな成果を期待するものである。